

日本移民学会第 32 回年次大会プログラム

【日時】：2022 年 6 月 25 日（土）・26 日（日）

【会場】 京都大学 吉田キャンパス（吉田南構内）吉田南 4 号館

【問い合わせ先】 大会企画委員会：iminkikaku@gmail.com

【主催】 日本移民学会

大会企画シンポジウムテーマ：「異邦に生きる移民の高齢化と弔い」

これまでの移民研究においては、人びとのトランスナショナルな移動や移住先の社会における定住化や社会統合のプロセスに関心が寄せられてきた。そこでは、移民 1 世のいわゆる現役世代のコミュニティ活動、労働、文化や、第 1.5 世代や第 2 世代への言語や文化の継承などが注目されてきた。しかしながら、そうしたトピックと比べると、異なる文化・宗教的環境における移民の高齢化や死をめぐる諸問題に関する研究は、社会福祉（多文化ソーシャルワーク）といった分野を除いては、それほど蓄積されてこなかったといえる。

日本の文脈を考えてみても、1980 年代以降、アジアや南米の諸地域などから日本へ移住してきた、いわゆる「ニューカマー」と呼ばれる人びとのうち、初期に移住した人びとの日本での暮らしは 30 年をこえている。そして、高齢者の増加により彼ら／彼女らの死とその弔いはより切実なものになりつつあり、近年メディアでも報道されるようになってきた。ただし、「日本社会と移民（移住者）」という点でいえば、ハワイ・南北アメリカ大陸への出移民や国内の在日コリアンや華僑華人などのより長い歴史がすでに存在している。

こうした背景を踏まえて、本シンポジウムでは、海外日系移民（ハワイ）と在日コリアンの先行する経験と、現代日本のニューカマーたち（在日フィリピン人と在日ムスリム）の諸事例を架橋した議論の展開を試みたい。故郷を離れて異邦に暮らす移民たちにとって、老後をどのように過ごして死を迎え、いかなるかたちの弔いを行い、また埋葬の地をどこに定めるのかといった選択は容易なことではない。そこには高齢移民の当事者たちが有するアイデンティティ（帰属意識）、宗教文化、生活状況といったものだけでなく、しばしば国境を越えてつながっている家族や親族などの意向も深く関わっているだろう。

本シンポジウムでは、移民たちの高齢期の暮らし、死にかかわる諸実践とそれらをめぐるメンタリティについての諸事例について検討することを通じて、移民研究や移民政策においてしばしば言及されてきた「定住」「永住」のリアリティを、より深く理解していくための機会としたい。

日本移民学会は、歴史学、社会学、文化人類学、地理学、文化研究などの多様な分野の研究者たちによって構成されており、研究対象となる地域やトピックも多岐にわたっている。そうした多様性に富む本学会の個性を活かした有意義なシンポジウムとしたい。

大会企画委員長 高橋 典史

■ 大会前日：6 月 24 日（金）

18:00 ～ 20:00 四役会議・理事会（オンライン）

■ 大会第 1 日目：6 月 25 日（土）

12:00 ～ 17:00 受付
13:00 ～ 17:00 大会企画シンポジウム（3 階 30 講義室）
タイトル：異邦に生きる移民の高齢化と弔い
趣旨説明：高橋 典史（東洋大学）
司会：フェリッペ・モッタ（京都外国語大学）
報告 1. 平川 亨（明治大学）「ハワイ日本人移民の死と葬送ーハワイ島コナの墓地調査からー」
報告 2. 李 仁子（東北大学）「祖先になった移住一世の弔いと子孫のルーツ捜しー在日コリアンの墓地建立とふるさとをめぐってー」
報告 3. 高畑 幸（静岡県立大学）「在日フィリピン人結婚移民の高齢化ー老後の居場所をめぐって」
報告 4. 岡井 宏文（京都産業大学）「老いと死と向き合う：在日イスラーム団体の活動と個人の意識から考える」
コメント：玉置 太郎（朝日新聞）、川村 邦光（大阪大学名誉教授）
17:10 ～ 17:50 総会（3 階 30 講義室）
18:00 ～ 20:00 懇親会（3 階 30 講義室、飲食なし）

■ 大会第 2 日目：6 月 26 日（日）

9:00 ～ 16:00 受付
9:30 ～ 12:45 (A 会場) 自由論題報告 2 会場（1 階 10 講義室、1 階 12 講義室）
9:30 ～ 12:05 (B 会場)
14:00 ～ 16:00 ラウンドテーブル 3 会場（1 階 10 講義室、12 講義室、2 階 23 講義室）
16:10 ～ 17:00 理事会（2 階 24 講義室）

◆自由論題報告

A 会場（1 階 10 講義室）		司会：飯島 真里子、中山 大将
古川 敏明（早稲田大学）	ハンセン病治療のために来日したハワイ先住民ーハワイ語新聞を手がかりにー	

劉 罡（名古屋大学（院））	引揚者団体全国連合会の活動および戦争体験の語り―戦後日本における在外財産運動に着目して―
張 龍龍（北京工業大学）	台湾における大陸籍＜青年兵士＞の帰郷運動と戒厳体制の崩壊
伊吹 唯（熊本保健科学大学）	移民送出地域における移民史の再構築と継承活動―熊本県の事例からの考察
園田 節子（立命館大学）	バンクーバー中国系カナダ人による歴史・文芸アクティビズムと移民史研究の発展

B 会場（1 階 12 講義室）		司会：藤浪 海、三浦 綾希子
小波津 ホセ （宇都宮大学／早稲田大学）	ペルー人の移民団体の可能性～「弱者」から「共生」へ～	
齊藤 優（神戸大学（院））	エスニックコミュニティの中核を担うホワイトカラー在日フィリピン人に関する考察：大阪市近郊のカトリック教会での参与観察から	
李 定恩（立命館大学）	フィリピンの韓国系英語学校が形づくるフィリピン人英語講師たちの「移動」―フィリピン人英語講師たちの職業移動と意味づけを中心に―	
永田 貴聖（宮城学院女子大学）	移民研究を実践するということ―「オートエスノグラフィ」の視点から	

◆ラウンドテーブル

ラウンドテーブル A（1 階 10 講義室）	
日系人強制収容所内でのジェイムズ・H・ワカサ射殺事件と慰霊碑の顕彰に向けて	
モデレーター：柳澤 幾美（名古屋外国語大学他）	
日系人強制収容所を巡る行政の政策について	村川 庸子（敬愛大学）
ワカサ氏の日本の親族探しの進捗状況	柳澤 宏（瀬戸市役所）
慰霊碑の発掘と 2023 年追悼式典について	
ナンシー・ウカイ（ジャーナリスト、Wakasa Memorial Committee）	
上映：ショート・ドキュメンタリー Murder in the High Desert, The Killing of James Wakasa（エミー賞受賞の映像作家、エミコ・オーモリ作品）	

ラウンドテーブル B（1 階 12 講義室）	
移動する人びとの生から沖縄の復興と米軍占領を考える	
モデレーター：岡本 直美（同志社大学）	
占領初期の北部収容地区に残留した那覇市民と福祉による移動	
謝花 直美（沖縄大学／沖縄タイムス）	
1950 年代の沖縄における土地闘争と＜農民＞の変化	岡本 直美（同志社大学）
米軍占領期沖縄のパイナップル産業における技術の導入と人の移動との連関を考える	

ラウンドテーブル C（2 階 23 講義室）

越境政治の国際比較——出移民と送出国家のトランスナショナリズム

モデレーター：園田 節子（立命館大学）

在外ブラジル人向け政策の現状と課題

アンジェロ・イシ（武蔵大学）

韓国人のトランスナショナルな移住と越境する公権力——東南アジアの『コリアン・デスク』を中心に

李 定恩（立命館大学）

中国のグローバルな『僑務』の歴史的検討——動機・体制・変容

園田 節子（立命館大学）

■ 大会への出欠について

第 32 回大会の出欠は、日本移民学会 HP トップページ「第 32 回年次大会プログラム・登録フォームのお知らせ」に掲載したリンクから、2022 年 6 月 17 日までに登録してください。参加費については、本学会の会員については無料、非会員は 1,000 円（大会当日に受付にて支払い）となります。

日本移民学会 HP: <http://imingakkai.jp>

■ 飲食・交流スペース・クロック・ネット環境について

・新型コロナウイルス感染予防のため、会場屋内では飲食を控えていただくようお願い申し上げます。昼食については、開催校付近の飲食店やコンビニなどをご利用ください。

・交流スペースとクロックは、1 階 13 講義室にあります。交流スペースには、ポケット WiFi を 1 台置いております。なお、京都大学は eduroam のサービスに参加しております。

■ 会場について

京都大学吉田キャンパス・吉田南構内の構内マップ、およびアクセス情報については以下のリンクをご覧ください。吉田南構内には北側または西側の門からお入りください。

構内マップとアクセス：<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r-ys>

京都大学吉田キャンパス・吉田南構内の構内マップ（吉田南 4 号館は 92 番）



■ 大会参加者向けのオンライン書籍販売

▼日本移民学会第 32 回年次大会 割引販売（明石書店）

- ・ 期間：7 月 3 日（日）まで
- ・ 価格：税込価格から 2 割引・送料無料
- ・ 販売フォーム

https://docs.google.com/forms/d/1SqlRqp9_BLlh0-UpJ6BVxHlORhKpyFYAH3ve2dFcy30/edit

※ ご注文を確認次第、 eigyo@akashi.co.jp よりメールをお送りいたします。

大会企画委員：高橋典史、拝野寿美子、岡井宏文、土屋智子、フェリッペ・モッタ、劉昊、徳永悠
開催校：徳永悠